

Mín kě shǐ yóu zhī
民可使由之民は之これによらしむ可べしこれ〈泰伯第八〉桜美林大学名誉教授 / 孔子学院講師 植田渥雄うえだ あつお

『論語』には、これまで誤解され続けてきたと思われる言葉が幾つかあります。その一つが表題の一節です。この後に「不可使知之 (bù kě shǐ zhī) (之これを知らしむ可べからず)」が続きます。「由らしむ」とは、信じてついて来させることです。「之これ」とは何を指すか、この章句だけでは、はっきりしませんが、ここでは政策とか政治手法を指すと考えられます。「知らしむ」とは、知らせること、又は理解させることです。「民」とは民衆です。したがってこの意味は、民衆というものは、当面の政策課題に関して、信じて従わせることはできるが、その意味内容を理解させることはできない、更に言えば、民衆とは、無条件に従わせるべきものであって、政策の内容など知らせるべきではない、ということにもなります。

しかし、これでは専制主義、隠蔽政治の肯定ということになりかねません。専制主義をあからさまに肯定し、奨励する人は、さすがに現代の民主制国家では少数派になりましたが、隠蔽政治は今も存在します。そこで隠蔽政治の悪例として、この一節を持ち出す人は少なからずいます。「情報は公開しなければならぬ。由らしむべし、知らしむべからず、ではいけない」「由らしむべし、知らしむべからずの政治手法は改めなければならぬ」等等。

孔子は、はたして専制主義や隠蔽政治を奨励したのでしょうか。ここで問題となるのは「不可」の意味です。訓読では一般に「べからず」と読みます。これを国語辞典で調べると、「～してはいけない。禁止を表わす」とあります。一方、古語辞典には「～することができない。不可能を表わす」とも併記しています。禁止と取るか、不可能と取るか、ここで意味は大きく変わってきます。前者は、「知らせて

はいけない」となり、後者は「知らせたくても知らせることができない」となります。

ところで、「べからず」という表現はもともと日本語にあったものではなく、中国の古典を読み下すために作られたものです。古くは不可能の意味で使われることもありましたが、後世では禁止の意味で使われる方が圧倒的に多くなりました。一方、中国古典の用法では、禁止の意味で使われることもないわけではありませんが、不可能の方が主流です。誤解は恐らくこういう所から生じたものかと思われます。

孔子は混乱した社会秩序の安定回復のために、身分制度を重んじましたが、一方では、望む者に対しては身分の分け隔てなく教育を施しました。「自行束修以上、吾未嘗无诲焉 (Zì xíng shù xiū yǐ shàng, wú wèi cháng wú huì yān) (束脩そくしゅうを行おこなうより以上は、吾未だ嘗てわれ誨かつうるおしこと無くべあらべず)〈述而第七〉。少なくとも最低限の謝礼を払って入門した者には、教えることを断ったことがない。これが孔子の教育信条でした。教育を受けたことの無い人、たとえ被差別地域の出身者であっても、知識を得たいという志のある若者を排除することはありませんでした。

しかし当時の社会状況を考えれば、運よく教育を受ける機会に恵まれた人は、ほんの一握りに過ぎません。民衆のほとんどは教育とは無縁でした。これだけは孔子一人の力ではどうにもならないことでした。とは言え、世の指導者たるもの、そういう民衆に対しても応分の責任を負わなければならない。そのためには無知の民衆からも信頼を得られるよう行動しなければならない。孔子の言葉にはそういう思いが込められているとみるべきでしょう。

(わんりい「中国語で読む漢詩の会」講師)